

子どもたちの言葉に驚かされることがよくあります。ひまわりこども園の子ども達は、天才なんじゃないかと一人考えています。

今年は、園舎を囲むように「ひまわり」や「コスモス」を植えました。コスモスの後は、「菜の花」を植えようと楽しみにしています。

ひまわりは、たいよう組さんとそら組さんが、一個ずつ丁寧にまいた種が芽を出し、大きく成長し皆さんにも見ていただいたように、たくさんの花を咲かせました。成長過程では、毎日のようにひまわりの様子を見ながら、「大きくなったね」

「すごい高くなったね」等、子どもたちの声が聞こえました。花が咲くと、「ひまわりの花だ」「大きな花だね」「ぼくの蒔いたひまわりだ」などとお互いに話し合っている姿がありました。自分たちで種まきをしたことで、成長を楽しみにし、積極的に世話をしようとする姿も見られます。興味・関心を持つことで、子どもたちのやる気スイッチが入り、大人に指示されなくても自分で動こうと

します。



八月に入ると、花が終わり種ができるようになりました。周りにはスズメたちも、たくさんの餌があると言わんばかりに、集まってきて食べていました。子ども達もそんな姿も見ていました。人間と鳥が共存しているなと感じることでした。

ある日、来年のためにと種の収穫をしている時です、4歳児が「園長先生・・・・・・・・

〈大切にしたい考え方〉

- 子どもの主体性を高める
幼児教育
- 興味関心を大きくする環
境構成
- 生活の場としての園生活

ひまわり9

元気な子どもたちとともに

〈教育目標〉

元気で思いやりのある
ひまわりっ子

〈職員目標〉

- チームワーク
- 主体性を育む保
育
- 資質向上

もう夏が終わるんだね。」とさらっと言いました。私は、この子は詩人だなと感心しました。普通なら、「ひまわりもう取るの」「種になったの」「種欲しい」などだと思いますが、ひまわりから夏が終わるを想像するとは、大人にもなかなか発することが出来ない言葉です。その子にとって、自分で種まきしたことで、ひまわりの花が日常の風景になり、自分の生活の一部になっていたから、ひまわりの花と夏という季節を結びつけることが出来たのだと思います。その上で、種の出来上がりを夏の終わりに見立てるなど、素晴らしい発想です。

私たちひまわりこども園では、一人ひとりのやりたい、やってみたい気持ちを大切にしたい保育を進めています。子どもたちに安心な居場所としての保育を提供するとともに、子どもたちのやってみたいが実現する環境を設定するように努めています。保育者も日々子どもたちの声に耳を傾け、一人一人に寄り添い、どうしたら

一生懸命その子らしく遊ぶことが出来るのかを考えています。一生懸命遊ぶ中で、興味関心も高まり、失敗しても何とかしようと修正する力がついてきます。このような力が大人になってから、進学を決定したり、就職を決定したり、自分の大事なことを決定したりする場面や、自分の周りの人との関係を考えている場面などで大切な力となり、大きな力を発揮してくれるのです。私たちは、今の子ども達と今の時間を大切にすることで、将来に生きて働く力を培っていくことが出来たらと考えています。

本園の保育者は、一人ひとりの思いを大切にしながら、子どもに寄り添いながら毎日の保育を子ども達とともに進めています。安心してお預けください。そして毎日のドキュメンテーションに目を通して、その内容について家庭で子ども達と話の花を咲かせてください。